

SAPPORO 教区 NEWS

第10号

2008年11月20日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10Tel. 011-241-2785 / ホームページ : <http://www.csd.or.jp>

11月24日(月・祝)
188殉教者列福式行われる!!



教皇代理・ローマ教皇庁
列聖省前長官 (Former
Prefect of the Congrega-
tion for the Causes of
Saints) ジョゼ・サライバ・
マルティンス枢機卿 (写真
右) の司式で正午から行わ
れる。

「教皇代理略歴」
1932年1月6日、ポ
ルトガル生まれ。クラレチ
アン宣教会入会後、
1957年3月16日司叙叙
階。1988年3月26日、
教皇庁教育省次官
(Thubunica・トゥブル
ニカの名義大司教) に任命
され、同年7月2日司教に
叙階。1998年5月30日、
前教皇ヨハネ・パウロ二世

により、教皇庁列聖省長官
に任命された。2001年
2月21日、枢機卿に親任さ
れた。2008年7月9日、
列聖省長官を退任。

「証-188」

列福式をともに祝おう!!
各地区でキリストの愛を
証した殉教者の生き方
を学ぶ集い開催!!

函 館

10月11・12日
肥塚神父(広島教
区)を講師に地区
合同黙想会

「ペトロ岐部と187殉教者」の列福式(11月24日、長崎で)が近づいているこのとき、広島教区司祭肥塚倅司神父様を講師にお招きし、『日本の殉教者に学ぶ』のテーマのもと18時のミサから合同黙想会が始まり、当日福音の「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」の説教で、殉教者の身体とアニマ(靈魂)についての話しがなされました。ミサ後、第一講話の前に加茂函館宣司評会長より挨拶と肥塚神父様の紹介があり、お母様は長崎五島出身、お父様は下関出身、朝は教会に行かなければ学校に行かせてもらえなかつた等、話がありました。講話は、朝早くからの長旅、飛行機到着30分遅れの疲れも見せず、精力的で、長崎の宣教ドチリナキリシタンの教え、ミゼリコルディアの組(慈悲役)が定められていた等、言葉に花を咲かせて言うべき「宣教時代」の宗教政策とのぶつか



講演する肥塚神父に聞き入る参加者

りによって、日本におけるキリスト教禁制・殉教がはじまったこと。約200年に亘る牧者不在の間信徒の果たした役割。宣教を伝えていくことを守らなければならぬ、祈りこそ力、私の教会、「人間の力が信仰をさせるのでは無く、神の力が働いている」とし、皆で福音を生きたる努力をしてい

た。等、溢れ出る話に引き込まれ、約150人の参加者は、感動の中に一日目は終わりました。

二日目10・30からのミサは肥塚神父・今田神父・ロー神父・当別修道院小山神父の共同ミサが行われ、約250人の参加がありました。ミサに続き第二講話が

行われ、11月の列福式に向け「今、殉教を生きたる」とのテーマで昨夜に引き続き潜伏の時代。函館(札幌教区)でも106人の殉教者が居たこと、188殉教者の殉教地の様子と主な殉教者の果たした役割が詳細に話されました。次世代への継承、カテキスタの役割等、今、信者として果たさなければならぬ役割を強く心に留め、黙想会が終了いたしました。『祈りこそ力』

地区宣教師牧評議会研修部長 中井高司

旭 川

カトリック大会と
黙想会で殉教と列
福の意義を深める

40回を迎えた「旭川地区
カトリック大会」

ここ湖北の地の教会(フランシスコ会)にても、188人の列福を願うための祈りと、その足跡を学ぶべく500人余が会場いっぱい集った。その集いの中、8月17日、長崎26聖人記念館長のレンゾ・デルカ神父(イエズス会)を迎えての講演と共同司式ミサが行われた。12名の堅信式もあり盛況裡に終わった。

講演のテーマは「殉教者

「私たちは日本の教会に遣わされたもの」。福者に挙げられんとする188人の聖者は、日本の教会の司教・司祭団が、ともに祈り願ひ出た聖者たちであり、多くのキリストン信徒とその家族、なかには名前すら分からぬ人達（その妻その子ども達、奉公人）も居た。彼らのその確固たる信仰は、どのようにして培われたのか。秘跡への渴望から潜伏司祭達への命がけでの保護、大弾圧の終焉に彼ら潜伏司祭の殉教が証明する。現代の教会に彼らがどのようなメッセージを投げかけているのか、その信仰をどう伝え活性化をはかれるかを考える、意義ある日となった。

「黙想会を終えて」

旭川六条教会

岩元光子

去る9月20日・21日、札幌月寒教会主任司祭の上杉昌弘神父をお迎えして旭川地区の信徒黙想会が開催されました。参加者数93名。

11月にひかえた「ペトロ岐部と187殉教者の列福」に向け、先に行われた旭川地区のカトリック大会のテーマから引き続き「信仰の証」について、さらに考え、祈る時間となりました。

過酷な迫害のもとに188殉教者の歴史的な出来事の数々。自分の命をもって貫かれたその信仰には、400年の歳月を越え、尚、現代の私達に深いメッセージがあることを再確認しました。

夜は殉教者を想いながら、あるいは自分の信仰生活を顧みて、語り合うことで分かち合いのいい時間を持つこともできました。

学び、想い、分かち合う、実りある黙想会だったと思います。私達カトリック信者にとって「信仰の証」は、永遠のテーマであり、日常生活のテーマであることを改めて思うものです。



カトリック大会の様子



黙想会後に談笑する参加者

札幌

信徒使徒職大会で殉教者の証しと宣教について共に考え祈った

「列福をひかえ、ともに祈る7週間」初日の10月5日（日）藤学園講堂に集い「188殉教者列福を祝い、と



講師の川村神父

もに祈る」―証しと宣教―をテーマに分かち合いました。

当日は、川村信三神父（イエズス会・上智大学文学部准教授）の講演と対話、地主敏夫司教司式の列福祈念ミサを通して殉教者の証しとわたしたちの宣教について考え祈った。

川村神父は、「現代の殉教者と殉教者列福の意義」について述べられた。188人は殉教者になると思つて生きてはおらず結果として神様の恵みを受けただけである。殉教とは自力で出来な

いもので謙つて神様から与えられたものである。キリストに倣うことを殉教者が教えてくれた。そして殉教者は、神様（聖書のみことば）を信じぬいた人々・絶望していなかった人々・誰も文句も言わず感謝して愛を貫いた人々であると言つた。

当時の共同体は、聖職者が介在しない「こんふらりや」（信徒信心体）という信徒団の形態で、残されている資料の写しを示して、200カ所の共同体に22万5千人の信徒がいたのに対し40人の神父しかおらず、信徒

は常に秘跡を授かれる状態ではなかった。しかし、それ故に聖体とゆるしの秘跡に集約される信仰を育み、逆説的に秘跡への信仰が強力な連帯意識を生んでいった。そして、「さんたまりあの御組規則」がのこされているように共同体の規則がしっかりといて聖職者が不在でも共同体が成り立っていくことができたと言つた。

教区 列福式に向けて

「188殉教者から学ぶ」講演会を10月20日（月）午後1時から北1条教会にて開催



楽しく講演する肥塚神父



講演会の参加者

肥塚倅司神父（広島教区・平和の使徒推進室長）を講師に向かえ、150名余りの司祭、修道者、信徒が参加し行われた。今回の講演会は、教区列福式担当部署が、今を生きる私たちにとって、殉教者の証ししたキリストの生き方を学び、祈り、現代で証する一助となればと考え計画した。肥塚神父は、日本でのキリスト教の歴史的背景をふまえ、日本司教団の考えを織り交ぜながら、殉教者の生き方を熱く語られた。参加者にとって、キリスト者としてどう生きていこうかを見つめる良い機会であった。

列福式実行委員会から 列福式に関するお知らせとお願い

列福式には、9月15日現在で、約3万人が参加予定です。式典は長時間になりますので、健康には充分気を付けてご参加ください。

「式当日の緊急連絡先」

■ 救護 本部

095-845-6222

■ 大会 本部

095-845-2111

「当日のスケジュール」

◆ 9時30分 開場予定

- ① できるだけ11時まで来場して下さい。
- ② 参加証は身につけて来場して下さい
- ③ 席は参加証の紐の色（札幌教区はBプロック・柿色）で配席されています
- ④ 救護本部、救護班（グリーン）のブルゾンを着用（入場時に確認して下さい）
- ⑤ 昼食や、水分・栄養分の補給は、各自で準備して下さい（水のペットボトルは場内で販売予定ですが、昼食用の弁当は販売いたしません）

せん）

- ⑥ 開式前にトイレ等の所用は済ませて下さい
- ⑦ 式の最中の撮影は、ご自身の席に着席のままおとりください

◆ 11時30分 188殉教者の紹介VTRを放映

◆ 12時00分 式典開始

- ① 式典の最中は、非常時（具合が悪くなった、急遽トイレに行きたくなった等）以外は席を立ったり、移動は控えて下さい

気が悪くなった場合は、非常時（具合が悪くなった、急遽トイレに行きたくなった等）以外は席を立ったり、移動は控えて下さい

◆ 15時00分頃 式典終了

- ① 退場には少なくとも30～90分程度かかることが予想されます
- ② 気分が悪くなった場合は、非常時（具合が悪くなった、急遽トイレに行きたくなった等）以外は席を立ったり、移動は控えて下さい

「移動・交通手段について」

- ① 当日は混雑が予想されますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい
- ② 会場にいたり、通常より90分程度余裕をもちて行動して下さい

もって行動して下さい

- ③ 駐車許可証は、車のフロントガラスの見える位置に提示して下さい（8月末で25台のバスが来場予定）
- ④ 駐車場からの退出には相当の時間（60～90分程度）が必要と思われます

「救護部から」

- ① 式典開始が12時からですので、特に、水分、栄養分の補給に配慮して下さい
- ② 救護班（グリーンのブルゾン）は、医師・看護師・ボランティアで構成し、会場内の各所（30チームの予定）に配されます。気分が悪い時には声をかけて下さい
- ③ 保険証（又は写し）を持参下さい。治療中の疾病、治療・服用中の薬（インスリン注射）等がある場合は、参加証の裏面に記入下さい

その他

- ① 雨天の場合、雨傘は利用できませんので、レインコート、ビニールコート、ポンチョ等を各自準備して下さい
- ② ごみは、所定の場所に捨てるか、各自持ち帰って下さい

列福式前夜祭の日程

実行委員会は巡礼指定教会として、浦上天主堂・城山教会・大浦教会・26聖人記念聖堂の4つの教会を選びました。26聖人記念聖堂（西坂）は福者の殉教地であり、城山教会はアウグスチノ会が司牧する教会で、金鍔次兵衛神父の修道会です。大浦教会と浦上天主堂は長崎の信仰の歴史的遺産を継承する教会です。「祈りの集い」は午後4時から午後9時まで各巡礼指定教会で行われます。浦上天主堂では午後5時～午後5時45分まで列聖列福特別委員長溝部司教様（高松教区）の司式で「前夜の祈り」が行われます。また、城山教会ではアウグスチノ会の関係者によって「列福に対する感謝のミサ」が行われます。以下参照下さい。

①浦上教会		②城山教会		③大浦教会	
テーマ：「命をかけて『いのち』を生きる」 聖体礼拝		テーマ：「時を超え今ひびく福者の祈り」みことばによる黙想		テーマ：「証・188」ロザリオ	
16：00-16：45	祈りの集い	16：00-16：40	祈りの集い	16：00-16：45	祈りの集い
17：00-17：45	前夜の祈り	16：55-17：35	祈りの集い	17：00-17：45	祈りの集い
18：00-18：45	祈りの集い	18：00-19：30	感謝のミサ	18：00-18：45	祈りの集い
19：00-19：45	祈りの集い	19：30-20：10	祈りの集い	19：00-19：45	祈りの集い
20：00-21：00	祈りの集い	20：20-21：00	祈りの集い	20：00-21：00	祈りの集い

④「26聖人記念聖堂」では青少年委員会の協力の下、青年たちの意向を考慮しながら集いが行われます。《殉教者の理解を深めるため、青年たちによる「恵みの風に帆をはって」（まるちれす編纂委員会編著）の朗読を中心とした祈りの集い、また17：00～17：20 教皇代理と共に祈る集いを計画中》

列福式前夜祭の詳細

札幌教区巡礼団のミサ日程

日	教会	時間	住所・連絡先
11/25(火)	カトリック中町教会	午前6時30分	長崎市中町1-13 TEL 095-823-2484
11/26(水)	カトリック植松教会	午前9時30分	大村市植松2-722-1 TEL 0957-52-2256
11/27(木)	カトリック青砂ヶ浦教会	午前10時15分	上五島 TEL 0959-52-8558

東京教会管区司祭研修大会が、 横浜教区で開催

東京教会管区の司祭研修大会が、10月20日から22日までの三日間の予定で、伊東市のホテル「エクシブ伊豆」に120名にも及ぶ大勢の司教、司祭が、札幌、東京、横浜、さいたま、新潟、仙台の六教区から集まって開催されました。

「過去を振り返りながら、これからの日本の社会の福音化を考え、祈る」でした。溝部司教（高松教区）の「殉教者たちのあかしから現代の教会は何を学ぶことができ

るのか？」では、当時のスペイン、ポルトガルの両国によって宣教区域が線引きされたことによる修道会同士の確執が、影を落とすとして宣教された側への配慮が欠けていたのではないかと指摘しました。

つまり、自国側の利益主導の下に宣教が行なわれたということですが、しかしながら、殉教した人たちは、その事情を充分承知しながらも、信仰を捨てることなくキリストに従った人たちでした。これは、現代の私

たちに考えさせられる事実として真摯に受け止めていかなければならないことだと思えます。

二日目の講演は、韓国のカン司教の「隣国から見た日本のカトリック教会」というテーマで行なわれました。韓国のキリスト教の始まりは18世紀です。



講演するのカン司教

経済的に行き詰まり、ヤンパンという身分制度に問題があると感じた民衆が、それまでの儒教を中心とした「忠」「孝」の教えに疑問を投げかけた頃にキリスト教に出会い、北京にイ・スンクンという人物を派遣して要理を勉強し、洗礼を受けたことが始まりとされています。

第二次大戦後に40万人だった信徒が、現在は450万人にまで達しています。ですが、単に増えればよいというものではないという反省も生まれている。

1900年の始めごろは、植民地となって迫害、圧迫が起ころるなか、信者になることは、命がけのことでした。しかし、現代の韓国社会からは、昔のような命がけの信仰が育つ土壌もなくなり、3万人とも言われている殉教者が守りとおした信仰は、影も形もない状況です。

このような状況の中1990年に入って信仰と生活を結びつける運動が起こり、小共同体作りが始まった。それは、聖職者と共に信徒一人ひとりが参与することである。

最後に日本の教会に触れて、信者の数は問題ではない、真の信者が一人でも二人でもいればよい。教会は、基本的に交わりである。日本の教会は、世界の教会と繋がっており、一人ぼっちではない。希望を持って励ましあいながら互いに歩んで参りましょうと日本の教会に呼びかけておられました。

テオドール神父の 金祝を祝う

5月17日（土）に名寄教会で、10名の司祭を含めて、道外の福岡や大阪から駆けつけた修道者・信徒が約190名集い、記念ミサと祝賀会が行われた。当日は、急遽祝賀会場を変更したほど多くの方々が参加し、テオドール神父様の司祭叙階金祝をともに祝った。

そして、テオドール神父司式の6月1日（日）の主日ミサを最後に、名寄教会はフランシスコ会司祭の共同生活を土台にした宣教司

牧となった。司祭が教会に非常駐で、鈴木主任司祭の指導のもとで信徒共同体が中心となって小教区を運営している。



お祝いに駆けつけた人々と一緒に

10回目の 2009年 国際デーが 行われる

10回目を迎えた2009年国際デーを振り返って、実行委員に感想を頂きました

今年の国際デーは、各小教区の方々を初め、英語ミサ関係者、YMCA、大学生等のボラ



至らぬ点が多々あったかと思いますが、反省材料として節目である第10回目（2009年）に向かって努力し頑張って行きたいと思っております。今後も、国際社会として定着、また、向上するためには、皆様方のご理解とご協力を賜りますことを切に祈っております。ありがとうございます。

戦争のない平和な

世界を求めて

8・15平和祈願ミサ

ンティアのご協力により、前日の9月27日（土）、の準備作業、28日（日）の本番当日、また、終了時の跡付け等、大変、労苦を掛け、心から感謝しております。お蔭様で好天気にも恵まれ無事開催することができました。出店された15カ国21店舗の各国の出店者自慢の料理、民芸品等の販売の店舗手伝いのボランティアの人達とが意気投合したこと、また、参加された各国の観客の人達が、より一層交流が深まる場ができたこと、また、舞台上のエンターテイメントと参加者の子供から大人の方々と一体となり、和気藹々の雰囲気であったことに実行委員会として大変安心しました。実行委員会として、まだまだ、

地主敏夫司教は説教の中で、核爆弾にはこの世に存在する価値はないと断言し、8月15日は、聖母の被昇天を祝うためと平和を祈願するためにミサを行うこととが、私たちには定められている。

そして、説教の最後に、私たちが平和を祈ることはもちろん大切なことであるが、しかし今、私たちに求められているのは、さらに一歩進んだ平和のために何か行動を起こすことであり、そのために働く人である。そして、働く人を手伝う人であると話された。

シドニー・ワールドユースデー (WYD in Sidney)



札幌での報告会の様子

南国の青年たちと妙に親しくなりました。ホームステイの同室も鹿児島教区の司祭で、南国特有の顔立ちとさっぱりした性格の持ち主でした。

一人一人がこの大会で信仰の成長を得、また人とのつながり、今後の活動の力を得たり、自分を深く見つめたりなどしてました。札幌教区から参加した4人の青年たちも意識が非常に高く、それぞれに神から多くの恵みをいただいたようです。いろいろな信者の方が祈っていたと、後で知りました。

皆さまに心から感謝しつつ、今後の青年たちの歩みに期待し、また彼らのために祈っていただけたらと思います。

池之上ジエームス博
私は良いカトリック信者とは思っておりません。教会も行った行かなかつたり。お祈りも忘れたりしてしまいます。

池之上ジエームス博
私には良いカトリック信者とは思っておりません。教会も行った行かなかつたり。お祈りも忘れたりしてしまいます。

それでも私は前回と今回のWYDに期待をもって参加させていただきました。この期待には様々な人々に会え、楽しめるという期待以上に、良いカトリック信者とは言えない自分でもWYDを通して神様を感じる事ができるかも知れない期待がありました。

世界中から何十万人というひとがたった一つの目的のために集まったのです。それは神様に会うため。

私は人種、価値観を越えて神に祈る人々、そして自分自身を通して確かに神を感じました。

「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」

私はトマスと同じです。神様を心から信じる事ができませんでした。信じることが怖かったといえます。今も不安が残ります。

しかし、WYDに参加することにより神様に近付くことができたと思っております。

西川 武志
聖霊の導きのままに、おそるおそる身をゆだねた結果、参加する勇氣につながった。

「勇氣」わたしの力ではない方のおかげで今、生きられている事に感謝。今回35歳までという事で最年長の参加でした。ぎりぎりセーフというところです。

さらにパパ様や司教様から「関係」「一致」「分裂しない」が大切と教えられた。

「ペトロは岩、教会はその岩の上立って決して揺るがない」事を再確認できた。仲間や神父様方に支えられ、いろんな人と交わり、交流し助け助けられて、本当に「関係」が大切と学んだ。

若い人たちから「とにかく最後まであきらめない」という事を学び、今後、次世代に伝えなければならぬと強く感じました。

多くの支援をして下さった皆様、祈ってください。皆様に心から感謝し、今回の出会いは大切に、今後自分の醜いところも全部抱えて、前に一歩踏み出して生きたいと感じたWYDでした。



「得たもの」

名和 泰広

僕は3年前もWYDに参加しました。大会での体験はとても新鮮なもので、帰国した後の自分に大きなモチベーションを与えてくれました。

今回も少なからずそういった体験を期待して参加を決めたのです。しかし、得た恵みは前回とはまた異なるものでした。

楽しく、刺激的で外にはかり目に向いた3年前と比べ、今回はお祭りのな雰囲気を楽しむというよりも温かく迎え入れてくれた現地の方々の優しさが身に染み、内面的な洞察に傾く時間が多かったような気がします。

これまで、僕は自分の内面の奥底まで触れようとはしませんでした。大会を通じての体験や感想は自身の卑小さを浮かび上がらせ、弱い自分と向き合う時間が続きました。そしてそれ故に人間が助け合い、愛し合う姿を今は素直に肯定できるようになった気がします。

最後になりますが全ての方のお祈りに感謝申し上げます。ありがとうございます

した。

ネットワークミーティング (NWM) 全国議行われる

大町教会 筒井貴久

全国各地の青年たちとの交流ができるということで、9月13日から東京で行われたネットワークミーティングに参加してきました。参加者は、230人の青年たちが集まり、テーマの中心である「ミサ」を共に考え、お互いの考えを分かち合いました。

分かち合いの際には、「聖歌隊」「侍者」「福音」「共同祈願」など、特にミサには欠かすことのできない役割を12の班に分け、僕は「福音」の班で分かち合いを行いました。

中でも特に印象的だったのは、鹿児島教区の郡山司教様が同じ班になり、話せたことです。自分にとって、司教様は雲の上のような存在であり、話すことなどないのだからと思っていたので、とても貴重で、とても有意義な時間でした。

翌日、メインイベントと聞いてもいい「手作りミ

サ」が行われました。前日に分かれた12の班がそれぞれの役割をミサの中で行うという、ある意味での全員参加型のミサでした。ある班は、御聖体を手作りし、ある班は、司教様の着る祭服に刺繍を施し、すごく自分たちで作り上げた感じがして、すごく素敵で、すごく楽しく、すごく感動しました。

今回得られたたくさんの方々の経験を今後の青年活動に生かしていきたいと思えます。次は京都であるそうなので、次回も参加したいです。ネットワークミーティン



NWMの参加者

グが終わった夜に、青年連絡協議会に参加しました。初めての参加だったので、議論している内容を全て理解することはできなかったけれども、ひとつだけ。全国各地の青年たちが神様の下で、今後の青年たちの活動を通し、今、自らに灯っている火をどのようにして他の人たちへ灯していくかという、未来へつなげるための展望を議論しあっているという事だけは分かりました。今回、協議会に出て他の教区の人たちと話し、学べたことを、今後の青年活動の中で生かしていきたいと思えます。

伊達カルメル会修道院で荘厳誓願



母様と Sr.水浦

聖ゲオルギオのフロンシスコ修道会で終生誓願と金祝を祝う

11月3日(月・祝)午後1時半から札幌マリア院で終生誓願と11名の金祝を祝うミサが地主敏夫司教の司式で行われた。聖堂一杯の参列者で共に祝った。



誓願をたてる Sr.山川

10月11日(土)午前10時45分から、御聖体のマリア・アンジェリーナ 水浦まり子 シスター(長崎教区 中町教会出身)の荘厳誓願式が、地主敏夫司教の司式で行われた。生涯を神様と教会のためにささげ尽くすことを誓う姉妹を皆様の温かいお祈りと励ましによって見守ってください。

終生誓願者はSr.山川敦子(北26条教会出身)。

金祝は、Sr.山崎順子、Sr.加藤はつ江、Sr.斎藤京子、Sr.加賀ツエ、Sr.吉岡タイ、Sr.ニーハウス・アグネス、Sr.福井みつ子、Sr.丹代ハツエ、Sr.金沢久子、Sr.三浦玲子、Sr.平沢圭子の11名。



金祝のシスター方と Sr.山川

北見地区
カトリック大会開催



講演者のライヤ神父と参加者

8月31日(日)年間第22主日、第43回カトリック大会が北見教会で開催されました。およそ100名ほどの方々が参加。地区宣教司牧評議会が決定した「派遣されている私たち」のテーマのもと、オホーツク5教会がこれからの宣教活動の新たな飛躍のために集いました。今年はこのテーマの第1年目、3年計画でこのテーマに取り組んでいく最初の年に苦小牧地区長のライヤ・フランシス師(メリーノール宣教会管区長)をお招きし、みんなで講話に耳を傾けました。

北11条教会
100周年を祝う



子どもから感謝の花束を受けた
地主司教と司祭たち

10月13日(体育の日)10時から地主敏夫司教の司式で記念ミサが行われました。1907年にキノルド司教が来道して、1908年に北15条東1丁目に修道院が造られ、北11条教会の前身である聖堂が献堂されたことが始まりです。地主司教は説教の中で、キノルド司教には大きく2つの事で感謝しています。一つは札幌教区の基盤を作ってくれたことで、二つ目は修道会司祭より教区司祭を育てることに力を入れてくれたことですと語られた。ミサの最後には、お世話になった司教や司祭に、子どもたちから花束が贈られ、和やかな雰囲気でもミサを終りました。

第43回苦小牧地区
女性大会開催



講演する宋神父

8月24日(日)室蘭プリンスホテルにて、地区司祭4名と信徒91名が参加。指導司祭は、今年4月から東室蘭教会主任司祭となられた宋榮峻神父で、「教会の活動」をテーマに、昼食をはさみ午前と午後の2回講話をされた。講話の中で「私たちは、やわらかい心と精神を持ち、実践をともなった信仰、奉獻することが大切で、時間と労力、お金を神様に捧げる様にお話をされた。」

初めて開催された
バイオリン・チャリ
ティーコンサート

募った浄財は、ユニセフを通じて、アフリカやバンングラディッシュの子ども達に

9月21日に室蘭教会で、滝川出身でパリ在住のバイオリニスト伊藤光湖さんを迎えて、初めてのチャリティーコンサートを開催。伊藤さんの奏でる心地よい調べが聖堂に響き、信者や市民ら約100人がうっとり聞き入った。バッハのソナタで始まり、マスネーのタイスの瞑想曲、自作のラ・ネージュ、新井満の千の風になつてなどの曲を、それぞれ分かりやすく説明しながら演奏。



第34回カトリック正義と平和全国集会に参加して

今回はカトリック大阪大司教区の主催のもとに、主として兵庫県と大阪府の各地を会場として、9月13日(15日の3日間行われました。主テーマは「へだての壁を越えて」。

初日の現地学習。

①道頓堀のキリシタン
②隠れキリシタン遺跡
③神戸のイスラム教・ユダヤ教寺院の3コースに、今回参加した3名は分かれて参加。

コース①は、部落の発祥地と言われている難波を訪問。1615年に難波という地が出来始めましたが、今は昔の面影もない大阪市の繁華街となった部落発祥の地を見て回りました。

コース②は、茨木教会に集合し、山道をキリシタンの里に向かい、茨木市立キリシタン遺跡史料館を見学しました。この北摂の地は木々に囲まれた山里で、徳川300年に亘って数家族が、千提寺や下音羽の山中で、潜伏キリシタンとして生活して、父子相伝でカトリックの信仰を守ったとのこと

でした。水士(洗礼役)、帳方(名簿係)、教え方などが、家長のみの大役として継承され、互いの家が狭い道で繋がっており、役人が山を登ってきたら、互いに伝え合うことで信仰を守ることが出来ました。このことは、大正時代にキリシタン研究家の藤波氏が墓碑を発見したことから判明しました。この北摂には高山右近の領地があり、1614年秀吉のバテレン追放令によりマニラへ他の信者とともに追放されました。当時は残った信者も縁者を含めて弾圧されるという時代に、数家族がこの山里で潜伏キリシタンとして生き、キリストの信仰を守り抜いたこの事実が、現代の私たちに教えていることは何だろうかと思問し、自身の信仰を省みる良い機会でした。コース③は、イスラム教やユダヤ教寺院を訪問し、他宗教の正義と平和思想について学びました。イスラム教に関し一問一答の時間を持ちました。イスラムとは「平和、従順、服従」などの意味をもち、唯一神「アッラー」への帰依を表します。帰依した者をムスリムと言います。

イスラム教では、アッラーは唯一絶対の神で、創造者・英明・公正・尊大にして慈悲にあふれ、全知全能で森羅万象を決定し、生・死・復活を司る存在です。正義の基本は、アッラーに平和があるようにと祈る。イスラムでは10歳までは親の責任で教義を教える。大人になると各人の責任で教義の理解を深めるといふ。その後、ユダヤ教の会堂へ向い、ラビからユダヤ教では、人間関係を良くすることで平和に暮らし、自分の宗教を生きたということが大切であることを聞きまし

た。「正義」はヘブライ語でいうツエデック(神の正義)、ツァデック(正しい人)に繋がっています。慈善活動は同情からではなく正義からなされます。貧しい人々のことは我々の責任として、助けることは正義を行うことなのです。

二日目は講演と分科会。ミサ後に、ベリス・メルセス宣教修道女会の弘田しずえシスターの基調講演「今、イエスの福音から世の中を見る、祈る、行動する」を聞き強い感銘を受け、正平ではキリストに従うという。何を祈るのか。イエ

スの原点から壁にない係わりへ。生活の中に越えたい壁がある。政治に首を突っ込むなどということ、祈るだけでよいのか等の想いが廻った。この後、21の分科会に分かれて議論を深めました。

最終日は報告と派遣ミサ。

国際パックスクリステリー氏から、パックスクリステリーの歴史と現在の活動報告があり、その後、派遣ミサを行い来年の再開を約して散会しました。(大会の詳細は、札幌地区正平の「J-P通信」でご覧になります)



7月19日(土)午後5時から北26条教会で10周年を祝う会が開催。

代表のマイレット神父ほか運営に携わられた方々や支援する人々が集い、この10年間の活動を振り返り、これまでの感謝と、これからのさらなる発展を誓った。

◆近野巨師、井戸井栄師の納骨式

10月19日(日)の札幌地区共同墓参の日、午後3時から白石の共同墓地で地主敏夫司教の司式で行われ、修道者・信徒約200人ほどが参列し両師の神様のみもとでの安息を祈った。



■白石墓地の聖母子像が竣工し祝福

壊された聖母子像に変わって新しい聖母子像が完成し、納骨式に先立ち地主司教により祝福された。これから私たちを見守り続けていくことだろう。



◆訃報

※ご冥福を心よりお祈りします※

◆メリノール宣教会
ジェラード・L・ボーン
レイ神父



米国ニューヨークのメリノール宣教会本部で8月8日に帰天。今年の4月に帰国したばかりであった。

〔略歴〕
1924年1月16日
米国コネティカット州
プレインフィールドで生まれる

1952年6月14日
司祭叙階

1952年8月
来日

1954年9月
1971年1月
京都教区にて司牧

1971年1月10日
1977年9月30日
メリノール宣教会日本
管区長

1992年6月1日
〔略歴〕
1912年6月1日
札幌生まれる

1979年5月1日
メリノール神学校神学生養成教育学部長、メリノール宣教会宣教師養成講師等を歴任
1989年10月
再来日
1990年2月1日から
東室蘭、室蘭、登別教会の主任司祭を歴任
2008年4月
退任し米国に帰国
2008年8月8日
帰天
享年 84歳

◆マリアの宣教師フランシスコ修道会
Sr.マリア・マグダレナ
吉田 百合子
急性肺炎のため9月8日午後4時30分に帰天。札幌第一修道院にて9月10日葬儀ミサが行われた。

1940年12月7日
修道会入会
1947年3月19日
終生誓願宣立
2008年9月8日
帰天
修道生活 68年3ヶ月
享年 96歳

◆発行のお知らせ

ペトロ岐部と187殉教者の列福を記念してドン・ボスコ社から、写真入の歴史・巡礼ガイド(1,050円・税込)が10月15日に発行された。殉教者たちが生きた歴史的背景を説明しながら、キリストの愛を証しした殉教という生き方を知ることが出来る一冊である。



◆編集後記

いよいよ188殉教者の列福式が行われる。10月5日(日)から「列福式をひかえ、ともに祈る7週間」がスタートし、教会等で毎週お祈りが奉げられたことでしょう。そして、これから、日本の教会では司祭数が減少していく中で、殉教者の証しに倣い、「キリストの愛を信じぬくこと」「絶望せず希望をもち続けること」「キリストが愛してくださったように愛すること」を実践していくことが求められるでしょう。(編集子)